

三中学校だより

全校一心

令和2年度

No.4

R 2.12.17

館林市立第三中学校



自分たちの力でつくり上げた体育祭！

3年生の「ウィズ・コロナ・プロジェクト」の一環として、11月12日（木）に3年生の企画立案による全校生徒参加の「体育祭」を開催しました。競技前後の十分な手洗い・うがいと必要に応じた消毒、カラー軍手の着用、マスク着用による応援、生徒以外は無観客、2メートル間隔の綱引きや1メートル間隔のチームジャンプなど、感染症対策に注意と工夫をしながらも、その中でできる範囲の楽しい種目を考え出して、全学年参加で大変盛り上がりました。大会の運営も、3年生の実行委員と生徒会本部役員が中心となり、まさに生徒たちの力でつくり上げた体育祭でした。笑いとしさっぱいの「障害物リレー」、「Tail Lovebe」、「玉入れ」、「〇×クイズ」、一致団結して頑張った「綱引き」や「チームジャンプ」、真剣勝負の「全員リレー」と「選抜リレー」など、三中生のエネルギーが思い切り発揮された体育祭でした。

新型コロナウイルス感染症によって、多くの行事が中止や縮小を余儀なくされる中、三中生が自分たちの力で充実した学校生活をつくり上げた時でした。



【楽しく、熱く頑張った体育祭の様子】

2学年学級対抗戦

2年生が、おもしろい取組をしています。「落ち葉拾い」「ドッジボール」「バレーボール」「百人一首」の4種目を、12月中に学級対抗で競い合うというものです。

12月3日（木）の昼休みの時間には、2年生全員参加のイチヨウ等の落ち葉拾い競争が行われました。これは、学級ごとに拾い集めた落ち葉の重さの合計を競うものであり、どの生徒も勢いよく落ち葉拾いに取り組みました。15分間で4学級合わせて何と566kgの落ち葉を集めることができました。おかげで校庭がきれいになりました。

コロナの中でも、生徒は頑張っています。



【イチヨウの落ち葉拾いで頑張る2年生】
3年生も1年生も、落ち葉拾いありがとう！

校長のひとり言・・・「あるもの探し」

以前、黒沢幸子氏（目白大学教授・臨床心理士）の講演会でこんな話を聞いたことがあります。買い物をする暇なく帰宅して、急いで夕食を作る時、冷蔵庫を開けたとします。その時、私たちは「何があるかな？」と思いながら、冷蔵庫の中にあるものを探します。「何がないかな？」と思いながら探す人はまずいません。「何があるかな？何があるかな？あっ、ハムの残りがあつた。かまぼこのかけらもあつた。長ネギもあつた。卵も1個ある。ご飯の残りもある。よし、これならチャーハンが作れるぞ。」そうして作ったチャーハンは、用意周到に材料をそろえて作った料理より意外とおいしかったりします。「何がないかな？何がないかな？卵が1個しかないぞ。ハムもたったこれしかない。野菜は長ネギだけ。あとは残った冷や飯だけ。肉もないぞ。キャビアもないぞ。フォアグラもないぞ。ああ、ないものばかりだ。まったくしょうがない。これじゃあ、夕食なんか作れないぞ。もう夕食なんかいらぬや。ああ、私は何て不幸なんだ！」では、問題は大きくなるばかりで、何の解決にもなりません。冷蔵庫の中の「あるもの探し」は当たり前のことです。

ところが、日常生活に目を向けた場合はどうでしょう。私たちは、けっこう「ないもの探し」をしてしまいます。例えば、相手が身近な人の場合、「この人は、〇〇をしてくれない。〇〇ができない。〇〇も苦手だ。〇〇もない。」などと、ないものばかりに目を向けてしまいがちです。そして、落胆したり、腹を立てたり・・・これが対象が子どもで、「この子の中にはロクなものがない。これもしない、あれもできない。」などと、子どもの中にもないものばかりを探したとしたら、子どもが生きるはずがありません。

ある人を生かすことができるもの、例えば、その人の長所、持ち味、得意分野、さらには、その人に役立つ環境、その人を支えられる人などを、その人の「リソース（資源）」と言います。これは料理の材料と同じです。「ないもの」をいくら並べ立てても、それは材料にはなりません。「こんなところがあつた。こんなものもあつた。あれもある、これも使える。まだまだ捨てたものじゃないぞ。」と、冷蔵庫の中を探るように材料（リソース）探しをしてこそ、その人なりの料理を作り上げることができます。たとえそれが高級なフランス料理でなくても、おいしい自家製チャーハンならよいではありませんか。

子どもにとって、子ども自身はもちろん、学校も家庭も地域も「リソース」の宝庫です。ただし、せっかくの宝庫でも、「何があるかな？」という視点で探さなければ生かすことができません。私たちは、常に「何があるかな？何があるかな？」と思いながら、子どもの中や、子どもを取り巻く環境の中に、「あるもの探し」をしたいものです。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校生活の中でもできない事などがたくさん生じてしまいました。しかし、制約が大きくなってしまった学校生活の中にも、「あるもの」はたくさんあります。「何があるかな？何があるかな？」という姿勢で「あるもの探し」をしていって、充実した学校生活づくりに生かせればと思います。